令和3年度　川越市立図書館　主要事業報告

資料5

事業名	実施館	事業概要	自己評価	問題点	その他
資料整備（蔵書冊数）	全館	基本図書、新刊図書等の資料を購入し、蔵書の充実を図り、市民等の利用に供する。 令和3年度決算額は42，823，213円。	令和3年度末で、蔵書総数が882，606冊（新聞、雑誌は除く）となり、その内視聴覚資料が38，599点である。	資料費予算が減少しており、昨年に引き続き購入する資料の見直しが必要となった。新聞や雑誌も購入中止したものがある。また、資料の所蔵スペースが逼迫しつつある。	事業報告書参照。各館別蔵書冊数はp7、蔵書冊数の推移はp28。
学級訪問、学級招待	全館	小学3年生を対象に簡単な図書館の利用指導・ブックトーク等、本を紹介しながら読書の動機づけを行った。	市内公立小学校全28校へ訪問を行うことができた。	ブックトークを行える司書や職員の養成に時間を要する。	
ブックスタート	全館	4か月児健診の会場において保護者と赤ちゃんに一緒に絵本を楽しむ大切さを伝えるため絵本などを配布し子育て支援活動を行った。本市では平成15年度から実施している。	配布予定者の96．4%に手渡すことができた。	4か月児健診未受診者への周知が難しい。 新型コロナウイルス感染症の影響で図書館職員による説明と引き渡しができない状況にある。	
雑誌カバー広告事業	全館	図書館で購入している雑誌の最新号に掛けるカバー及び雑誌を配架する書架へ企業・団体の広告を掲示するものであり、図書館資料の充実を図るため、企業・団体からの広告掲示料は雑誌購入費に充てた。1館1誌あたり1か月1，000円。	令和3年度の実績は、5事業所から28誌に対して335，000円の広告掲示料を受領した。しかし川越駅東口図書館が冷暖房設備等改修工事で休館していた2カ月間の返金（8，000円）を行ったため、収入は327，000円となった。	大口契約の病院が撤退してしまったため、30万円の収入減となった。雑誌カバー広告事業の周知を図り、できるだけ参加する企業・団体を増やしていきたい。	詳細については同報告書p26を参照。
デジタルアーカイブの公開	全館	市立図書館が所蔵する資料を、図書館ホームページ上で自由に閲覧できるようにするため、デジタル化して公開する。	令和3年度中に5点追加し、現在16点のコンテンツを公開。また、令和3年度中の閲覧回数は2，062回。 令和7年度末までに30点をデジタル化し、公開することを目標としている。	現在職員が原本をデジタル撮影し、デジタル化を行っているが、専門的知識を有する職員が一人しかいないため、知識の継承が必要。また、撮影者によってクオリティが異なることのないよう、マニュアルの整備を行う予定である。	
児童向けのおはなし会	中央	児童向けに読み聞かせやパネルシアターなどを実施し、絵本やお話の楽しさを伝える。	「まいにちたのしいおはなし会」で49人、「すくすくいちにちおはなし会」で186人の参加があり、実施することができた。	新型コロナウイルス感染症の影響で、参加者が少なくなっている。	
電子書籍サービスの導入	中央	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、令和3年2月3日より導入した電子書籍サービスの充実を図った。	5，030点の電子書籍を購入し、計6，796点となった。 電子書籍を導入することにより、図書館に直接来館しなくてもネット環境を使用した書籍の利用が可能となるため、利用者が新型コロナウイルス感染症等の感染リスクを避けることができる。 また、直接来館しないことにより、不要不急の外出を抑制し、新型コロナウイルス感染症等の拡大を防止できる。	電子書籍は、新しいサービスであり、電子書籍化した書籍の数は流動的だが、図書館が契約した電子書籍のサービスのコンテンツ提供可能数が年々増加している。このように、図書館におけるタイトル数も豊富になってきているので、利用者が希望する書籍の導入を進めていきたい。	
夏休み子ども点字教室	西	伊勢原公民館の登録グループ「伊勢原点訳クラブ」にご協力いただき、児童に対して図書館の障害者サービスの理解を深めるとともに点字の普及を目指した。	定員15名のところ参加者12名で、コロナ禍でも昨年より申し込みは増加した。2班に分けて感染防止対策を徹底した。参加者はとても熱心で、点字への関心の高さがうかがえた。	引き続き図書館の障害者サービスの理解を深めるとともに点字の普及を目指す。	
ぬいぐるみ司書がおすすめする本を読んでみよう！	西	子どもたち（3才から小学生）にそれぞれ好きな本・好きなもののアンケートを行い、それを元に職員がお勧めの本を選定し貸出を行った。 図書館のぬいぐるみ司書が本を選び手紙とともに渡すという形を取り、家で読書が楽しくなるようにした。	前年度も中止になった「ぬいぐるみおとまり会」を開催予定だったが、新型コロナウイルス感染者が拡大したため急きょ当事業に変更した。そのため周知が行き届かず、4名の参加だった。参加者には評価が高かった。	子どもたちのぬいぐるみを預かって実施していた「ぬいぐるみおとまり会」が開催できず、代替として開催したが、好評を得ている。 感染防止対策も徹底出来るため、今後も折を見て開催する予定である。	
図書館福袋／としょかん福袋	西	コロナ禍の折、事業が制限される中で福袋を季節毎に年4回行う事で、利用促進と福袋を開ける楽しみを感じてもらう。 3連休になる3日間でなるべく開催し、4回で一般80袋・児童215袋計295袋をテーマごとに3冊選んだ。	毎月やってほしいという声もあり、毎回ほぼ貸出になっている。特集展示も毎月行っているが、テーマで本を選び、読んで良かったという感想をいただけるのは、福袋の良さを感じられる。	評価が高かったが職員の負担も大きく、きれいな本を探すのも苦労があった。中止していた事業も再開するので、年2回に戻す予定である。	
児童向けおはなし会などの行事	東口	年齢対象やテーマ別に各種おはなし会を行い、読み聞かせや紙芝居などによって絵本やお話の楽しさを伝える。	令和2年に中止していた定例おはなし会など、新型コロナウイルス感染症の感染状況に考慮しながら再開した。「にちようおはようおはなし会」は28回開催し、延べ174人の参加があった。再開したおはなし会を継続させるため、空調工事休館中は南公民館を会場とし、「ひよこおはなし会」や「いないいないばあのおはなし会」を開催した。	川越駅東口図書館の「おはなしのへや」は狭いため、新型コロナウイルス感染症対策として、人数制限が必要となる。しかし、行事によっては希望者も多く、他の会場をおさえたり、回数を増やしたりして対応する。	
夏のお楽しみ袋/図書館福袋	東口	夏のお楽しみ袋、図書館福袋ともに、袋に図書館員おすすめの図書を中身が分からないように3点入れたものを、一般向けはテーマに沿って40袋、児童向けは年齢別に60袋を用意し、貸出しを行う。	夏のお楽しみ袋、図書館福袋ともに、全て貸出された。	例年開催している福袋事業は、多くの利用者に活用された。	
各階の展示	東口	1階では一般図書の利用促進のため、月替わりの特集展示を、2階では中高生向けに読書推進のため、隔月の特集展示を、3階では児童向けに主に季節展示を行った。	1階の特集展示とは別に、雑誌書架の空きスペースを利用した「図書館員おすすめの本コーナー」を設置し、面出し（表紙を見せる）展示をしているが、他部署の依頼を受け「食育の展示」やオリンピックにあわせ「スポーツの展示」など、臨機応変に対応した。 さらに2月から「セカンドライフ応援コーナー」として、高齢者向けの健康づくりや趣味に関する本の展示を開始した。	特集のテーマによって貸出の利用状況が異なるため、利用者のニーズにあわせ、魅力的なテーマを展開していきたい。	
としょかん福袋	高階	12月23日から25日までの3日間、一般向け18袋、児童向け39袋、計57袋・171冊を、袋詰めして貸し出した。	3日間ですべて貸し出しとなり、参加者は57名。	例年人気のある企画で、職員全員がそれぞれ工夫を凝らした本選びを行っている。 所蔵資料に依存する企画なので、魅力的な蔵書構成と資料についての知識を深める努力を怠らないようにしたい。	利用者アンケートでは、高階図書館全体への蔵書には新刊図書に期待を寄せる意見が多かった。図書館全体に関しては、職員が親切で感じが良いなど好意的な意見が多かった。
大人のためのおはなし会	高階	18歳以上、とくに高齢者を対象としたおはなし会。3年度は「旅」にまつわる絵本、語りなどを中心に、職員やボランティアが実施した。	参加者14名。 高階公民館講座室にて、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分に行った上で実施。	新型コロナウイルス感染症等の影響により実施できていなかったが、3年度は様々な対策を行ったうえで実施することとした。 広報の問題もあり参加者は少なかったが、毎年実施してほしいとの声も多かったので、次年度以後も実施していきたい。	